

平成30年度 学校経営計画

富山県立となみ総合支援学校

1 学校教育目標

自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる。

《校訓》 明るく 仲よく たくましく

2 学校の特色

本校は知的障害や肢体不自由のある児童生徒を対象に、一人一人の自立と社会参加を目指して教育を行う特別支援学校である。医療的ケアが必要な児童生徒のために看護師を配置している。また、通学して教育を受けることが困難な児童に対しては訪問教育を実施している。

(1) 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を基に、小学部、中学部、高等部が相互に連携し、一貫したきめ細かな教育活動の実践に努めている。

＜小学部＞ 日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付け、健康な心身を育み、主体的に活動に取り組めるようにする。

＜中学部＞ 生活に必要な基礎的な学力と運動能力の向上を図りながら、生活経験の拡大に努め、社会参加への意欲と態度を育てる。

＜高等部＞ 卒業後を見据え、生活する力、働く力を育てるために必要な知識・技能・体力を身に付け、社会参加へのさらなる意欲・態度を育てる。一人一人に応じた進路支援を行うとともに、丁寧なアフターケアを行う。

(2) 地域の学校との交流及び共同学習や校外学習、地域奉仕活動等を実施し、社会性の育成を図っている。

(3) 砺波地区における特別支援教育の「地域のセンター校」として南砺市、小矢部市の幼、小、中、高等学校等からの教育相談や支援の充実に努めている。

(4) 児童生徒、家族、地域のニーズに応じ、医療・福祉・労働等の関係機関と連携した支援を行っている。

3 学校の現状と課題

本校では、障害の多様化や重度重複化が進む中、生活経験の拡大や将来の自立と社会参加に向け、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズに応じた教育実践が求められおり、それぞれの障害に対する教員の専門性のさらなる向上が必要であると考えている。保護者や家族、関係機関、地域の協力を得ながら個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用を進め、知的障害や肢体不自由それぞれの障害の特性に応じたきめ細かな教育活動の実践に日々努めている。

今後も、より豊かに主体的に卒業後の生活を送れるように、児童生徒や家族のニーズを適確に捉え、適切かつ丁寧に学習指導や生活指導、進路支援を行っていくことが大切であると考えている。また、登下校を含む日常の学校生活における安全の確保と健康管理、肢体不自由対応のための施設設備の整備を進めるとともに、障害や疾病に起因し突発的に発生する事態に備えて、適切かつ速やかな対応がとれるようにしていくことが必要である。

さらに、引き続き特別支援教育のセンター校として、地域の学校に対して、専門性を生かした支援や特別支援教育の有用性について理解啓発を図る役割も果たしていきたい。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領実施に向けた年間学習計画の作成を通して、小学部から中学部、高等部へと自立と社会参加に向けて、一貫した教育を推進する。 ○個々の障害の状態や特性を十分に把握し、キャリア教育の視点から多様な教育的ニーズに対応した適切な指導内容や方法を工夫する。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究を通して、教員の指導力の向上を図る。
		計画	<p>〈小学部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽科および図画工作科において、昨年度までに作成した「学習内容一覧表」をもとに全学年の「年間学習指導計画」を作成する。小学部6年間を見通して題材を配列し、体系的な学習計画を作成する。 <p>〈中学部〉</p> <p>○生活単元学習において、生徒が主体的に取り組むための指導方法や支援について話し合う。</p> <p>○主体的に取り組むための支援について工夫した事例を蓄積して教員間で共通理解する。</p> <p>〈高等部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業学習の評価表の様式を整えることで、担任、作業学習担当者、進路担当者が実態把握や目標設定を円滑に行い、生徒の実態に迫った効果的な指導を行う。 <p>〈研修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的な学び」を中心に授業づくりの視点を明らかにして、各学部での研究授業、協議を通して授業改善を行う。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい食習慣を身に付けるための食育の推進に取り組む。 ○児童生徒の緊急時対応や災害時の対応について、児童生徒の実態や安全性に関する情報の収集に努め、教職員の危機管理に対する意識や対応力の向上を図る。
		計画	<p>〈保健〉</p> <p>○健康な身体と心の成長を促すために、食に関する関心を高め、児童生徒の生活年齢に応じた食に関する目標を設定し、マナーの向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療的ケアを必要とする児童生徒や食物アレルギーのある児童生徒への適切な対応に向けて、それぞれの実態や特性に応じた情報を全教職員で共有するとともに訓練等を実施する。 <p>〈生徒指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の災害等発生時の対応力の向上を目指して、状況を想定した訓練等を行う。

3	進路支援	目標	○作業学習や就業体験を生徒一人一人が目標をもって学習できるように計画的に実施し、進路先への円滑な移行を図る。
		計画	<p>〈進路支援〉</p> <p>○<u>効果的に就業体験の事前事後学習が実施できるように、昨年度までに収集した学習プリントから「就業体験のしおり」「就業体験日誌」を改訂する。</u></p> <p>○<u>生徒、保護者、体験先、教職員が活用できるように、改訂に向けて様式や内容について検討する。</u></p>
		重点3	
4	特別活動	目標	<p>○望ましい集団活動を通して、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。</p> <p>○児童生徒会執行部を中心に児童生徒全体が主体的に取り組むことができる活動の推進を図る。</p>
		計画	<p>〈生徒指導〉</p> <p>○児童生徒会執行部が中心となり、生徒主体で取り組む校内あいさつ運動を計画的に実施する。</p>
5	その他	目標	<p>○地域における特別支援教育のセンター的機能の充実に努める。</p> <p>○情報機器の整備と効果的な利用を図り、教育活動の充実、校務運営の効率化を図る。</p> <p>○学校評議員をはじめ保護者や地域などに広く意見を求め、理解と協力を得て教育活動を進める。</p>
		計画	<p>〈教育相談〉</p> <p>○特別支援教育コーディネーター会での事例検討や校内での研修会を行い、教育相談や校内支援に必要な情報を共有し担当者の資質向上を図る。</p> <p>〈情報図書〉</p> <p>○I C T機器の活用を推進するために、体験を重視した講習会の実施や利用しやすい環境の整備を行う。</p> <p>〈総務〉</p> <p>○P T A活動において、活発な活動の実現に向けて、幅広く保護者が参加できるような親子活動を工夫する。</p>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成30年度 富山県立となみ総合支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生活単元学習の指導の充実について	
現 状	<p>中学部では、生活単元学習の年間指導計画を作成し、単元によって、学習集団の形を変えて計画的に指導を行っている。しかし、生徒の実態が多様化してきたことや、肢体不自由学級の生徒が各学年に所属するようになったことにより、単元における指導目標や内容、指導方法や支援が生徒の実態やニーズに合っているか、生徒自身が生活上の課題を解決し将来の自立的な生活につながるものとなっているかを見直す必要がある。</p> <p>生徒一人一人が集団の中で課題の発見と解決に向け、主体的に活動に取り組むことができるような生活単元学習の在り方について考えていきたい。</p>	
達成目標	生徒が主体的に取り組むための指導方法や支援についての授業担当者での打合せ会の実施	生徒が主体的に取り組むための支援について工夫した事例の蓄積
	8単元について実施	各単元につき1事例
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の計画の際に主務者が打合せ会を実施し、生徒の実態に合わせて指導方法や支援について意見を出し合う。 打合せ会で出し合った指導方法や支援を授業で実践する。 主体的な姿が見られた事例を表に簡潔にまとめ、教員間で共有する。 	

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

平成30年度 富山県立となみ総合支援学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	望ましい食習慣を身に付けるための食育の推進	
現 状	<p>本校には、偏食が激しかったりよくかまらずに食べたりする児童生徒や、生活リズムの乱れや栄養の偏りが一因となる生活習慣病、肥満等の心配がある児童生徒がいる。また、手洗いや箸の持ち方などの食事の基本的なマナーが身に付いていないなど、食事に課題をもつ児童生徒が多く在籍する。</p> <p>そこで、児童生徒一人一人の生活年齢に応じた食に関する目標を設定し、食に関して関心を高めるとともに、食事のマナーの向上を目指した実践をしていくことで、健康な体と心の成長を促していきたい。</p>	
達成目標	給食マナーアップ週間の実施	期間中、食事やマナーに気を付けることができたとする回答率
	5月と10月（各5日間）の2回	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 食習慣に関する実態を把握する。 児童生徒一人一人が、担任と相談しながら、個々の実態に応じた具体的な目標を設定する。 頑張り表を使って各学年・学級で振り返り、児童生徒が意欲をもてるように実践する。 担任がコメントを記入した頑張り表を家庭に持ち帰り、保護者と共有する。 	

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

平成30年度 富山県立となみ総合支援学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	進路指導
重点課題	就業体験の事前事後学習の充実
現 状	<p>進路支援部では、昨年度、就業体験の事前事後学習で使用する学習プリントや就業体験日誌の様式を各担任から収集したり、データを整理したりした。そして、その中から生徒一人一人に合うものを、担任もしくは学年で選んで使用できるように共有化を図った。一方で、何種類もある中から一人一人に合わせた教材や日誌を準備するには、時間がかかる面もあった。また、現在は学年毎に事前事後学習の計画を立てて学習を進めているが、生徒は、授業で使った学習プリントをその都度ファイルに綴っている。</p> <p>今後は、学年を追って系統的に事前事後学習を積み重ねることができる「就業体験のしおり」と、事後の振り返りがしやすい「就業体験日誌」を作成していきたい。</p>
達成目標	<p>「就業体験のしおり」「就業体験日誌」の作成のための検討会議の実施</p> <p>年間3回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで進めてきた事前事後学習の内容を整理して、2年次の前期・後期、3年次の前期・後期のそれぞれにおいて必要な項目に整えていくための検討会議を実施する。 ・作成した「就業体験のしおり」「就業体験日誌」を、前期就業体験の事前事後学習や就業体験で使用する。 ・生徒や担任、学年主任に、使いやすさや改善点などについて意見を聞き、後期就業体験に向けて、さらに使いやすいものに改善していく。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)